



賑わう山辺ワイナリー

### 地域農業の核 山辺ワイナリー



入山辺地区は、松本市の東部に位置し、美ヶ原高原の頂上までの広大な地区です。地区のほとんどは、山林ではありますが、豊かな薄川が流れ、四季折々の山菜の宝庫となっております。

又、農業に於いては標高の高い地域では、高原野菜の産地として、標高の低い地域では、山辺ブドウの産地として、全国的に知られる生産地です。しかしながら、野菜農家は、高齢化等により年々減少し、今ではほんの数軒の農家になってしまいました。

## 入山辺地区だより

しかし、ブドウの生産に於いては、平成十四年に営業を始めた「山辺ワイナリー」によるワインの生産ができるようになり、今までの生食用のブドウだけでなく、ワイン用の品種も生産される様になりました。

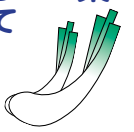
この、「山辺ワイナリー」は、地域農業振興と地域ビジョンを進める組織として、入山辺、里山辺の二地区で、平成五年「山辺農村計画推進委員会」を立ち上げ、地区の活性化施設として、レストラン「マリアージュ」、「ファーマーズガーデン山辺」とともに施設化されました。

ワインは、山辺産を中心とした100%松本産のブドウを使用し、デラウエア、ナイヤガラなどの他、シャルドネ、メルロ等のワインを造っており、方々より高い評価を得るようになっていきます。

本年も、糖度の高い上質なブドウが生産され、良いワインが醸造されています。ぜひ、山辺ワインが全国区になる様、御協力をお願いします。農業委員 百瀬 勤



### 市街化地域の農業 特産品の 定着を目指して



旧市は東に千鹿頭山、南は南松本、西は奈良井川、北は城山公園付近の区域であり、住宅、市街地の中やその周辺で米、洋菜、蔬菜、果樹等営農活動が行なわれております。

地区の状況として稲作の経営状態でみると六〇才以上が八割、五〇アル未満が九割、後継者は七割はいないという状況であり、他の生産物もこれに近い状況です。

他地区と同様生産面積の減少、高齢化、後継者担い手不足が深刻になっております。農業委員としても担い手の育成や営農組織化等課題として捕らえています。難しい問題です。

地区の課題解消の取り組みとして、まず一つ目の活動は、地産地消推進のための研究を進めてきました。JA松本市農産物直売所が八月五日並柳洋菜センターにオープンしました。毎週火・木・土・日曜日九時三〇分より午前中開いています。売り場も二〇種類以上が並び、品物を求めてお客様が増えています。十一月八日からは月曜日から日曜日

## 旧市地区だより

まで毎日、九時三〇分から午後五時まで開く予定です。

一つ目の活動としては、ネギ部会の皆様の御努力により、松本一本ネギが県の「信州の伝統野菜」に認定されました。愛称『まがりちゃん』のブランドで販売が始まりました。産地化、ブランド化を定着させ販売促進を進めています。

農業委員 和田 信一



まがりちゃんブランド



直売所風景